

伊澤エイの作品に関する研究(1)

奥 野 知 加

はじめに

「伊澤エイに関する研究」の(3)から(5)までは、大正末期から昭和初期におけるエイの作品を留学前と後とに分けて、また両者を比較することによって研究考察をすすめてきたが、留学後の作品数が増すにつけ、比較だけでは見い出せないエイ独自の表現の特性や運動の傾性などについても追究したいと考え本研究に取りかかった。今まで分析済の全作品を対象に、基本運動に関しては、それを総括してみることに同時に、基本運動使用頻度調査を行った。加えて作品の形態(隊形、拍子、形式)についても調査を試みた。また、これまであまり触れなかったポーズに注目することによって表現上の特性を探ってみた。最後に文中に特記されている教授上の注意点より、エイのダンスに対する指導観をも知りたいと考え研究をすすめた。以上のことから考え合わせた上で、エイのこの期における特性を知ると共に、今後分析をすすめて行く上での基盤にしたいと考える。

方 法

1. 全作品の形態(隊形、拍子、形式)と基本運動の総括表を作成する。
2. 個々の作品の中に使用されている基本運動の頻度表を作成する。
3. 作品中のポーズを全て取り出し解説文と合わせて検討してみる。
4. 作品中の教授上の注意点を全て取り上げることによってエイの注視点を明らかにする。

尚、基本運動の設定及び分類については、田川典子・高橋繁美共著「図説ダンスの基本運動」(新思潮社、昭和58年7月)に則る。更に便宜上運動毎に記号を附し、表1のような取り扱いとした。以降、基本運動の名称は記号をもって代える。

表1 基本運動分類表

I 緊張・解緊	(a) 緊張
	(b) 解緊
II 重心移動	(c) 山型・水平・舟底型移動
	(d) 歩(ウォーキング)
	(e) 走(ランニング)
	(f) 跳躍(ジャンプ)
	(g) 各種ステップ
	(h) 平均(バランス)
	(i) 倒
III 振動	(j) 振動(振る)
IV 弾性	(k) 弾性(弾む)
V 蛇動	(l) 蛇動(動揺)
VI その他	(m) ポーズ
	(n) 手拍子

表2

№	作品名	年代	拍子	形態(隊形)	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	total	
1	胡蝶	大正15年3月	2拍子	体操隊形		16	96			84	8		20					64	288	
2	二羽の蝶	昭和2年2月	2拍子	4-6人グループ 2人組		2	12	66	12	24	16	8	8	20				24	192	
3	遊びませう	昭和2年10月	4拍子	1/2重人 円組				16	32			4	12	16	6			14	28	128
4	モルゲンロート	昭和6年1月	2拍子	体操隊形		8	4	6		8	6		2	4	50			24	112	
5	フレンチマーチ	昭和6年1月	2拍子	体操隊形		22	40	12	20				8	172	16	16	14		320	
6	蝶の戯れ	昭和6年1月	4拍子	3列縦隊 3人組			2	44	12	2	32		8		16	28	32		176	
7	私たち	昭和6年1月	4拍子	2重人 円組				48	80										128	
8	喜び	昭和6年1月	4拍子	体操隊形				38		10	8			32	8				96	
9	友千鳥	昭和6年1月	4拍子	2重人 円組				128	40										168	
10	親鳥子鳥	昭和6年1月	4拍子	1/2重人 円組				120		56	32			12				4	224	
11	ダンスオブピース	昭和6年1月	4拍子	1/2重人 円組		16	4		8		36			48			16		128	
12	波上の月	昭和6年1月	4拍子	2列縦隊 2人組			16	84		12	40			32			16		200	
13	お月見	昭和6年1月	4拍子	2重人 円組		4		8		8	4			4			4		32	
14	ウンテルデンリンデ	昭和6年1月	4拍子	体操隊形		8	8		8	8		4		8	76	8			128	
15	巴里人の生活	昭和6年1月	3拍子	体操隊形					12	66	96		18			24			216	
16	空行雁	昭和6年1月	4拍子	体操隊形			16	24		32	216								288	
17	蝶のゆくへ	昭和6年1月	3拍子	6人グループ 隊形変化			36	24		66	117						45		288	
total					38	90	200	628	212	366	609	14	86	462	54	68	253	32	3112	
%					1.2	2.9	6.4	20.2	6.8	11.8	19.6	0.4	2.8	14.8	1.7	2.2	8.1	1.1		
順位					12	8	7	1	6	4	2	14	9	3	11	10	5	13		

表 3

作品名	基本運動の流れ
1 胡蝶	c-g-i-f-i-f-i-f-f-m-m-f-b-i-b-i-b-i-b-i-f
2 二羽の蝶	d-f-d-f-d-f-d-g-m-i-g-m-i-c-f-c-f-c-f-e-f-j-i-j-i-f-c-f-m-f-c-f-m-g-i-d-f-d-f-d-h-d-h-d-h-m-e-m-c-m-e-m-e-g-t
3 遊びませう	j-e-j-e-n-d-n-d-i-n-i-n-i-n-d-i-n-i-n-i-n-i-n-i-n-d-j-e-j-e-k-m-h-m-h-m-n-m-n-m-n-m-n-m-e
4 モルゲンロート	m-j-e-j-e-j-e-j-c-a-b-a-b-a-i-a-i-m-f-n-f-c-n-m-f-n-f-n-f-e-m-n-f-j-h-j-n-j
5 フレンチマーチ	m-j-c-n-j-c-j-l-g-l-j-l-j-l-j-l-j-l-g-a-b-a-b-j-k-j-k-a-b-a-b-j-k-j-k-a-b-a-b-j-k-j-k-j-i-j-i-j-d-j-d-m-a-b-m-a-b-d-j-a-b-j-m
6 蝶の戯れ	g-e-m-g-e-m-l-e-k-d-k-d-l-c-d-f-d-g-i-d-m-d-m-d-m-d-m
7 私たち	d-e-d-e-d-e-d-e-d
8 喜び	d-g-d-g-j-f-j-f-d-k-d-k-j-f-d-j-f-d
9 友千鳥	d-c-d-e-d-c-d-e-d
10 親鳥子鳥	g-d-f-d-n-j-n-j-d-f-d-f-d-f-d-g-d-g-d-g-d
11 ダンスオブピース	j-g-j-g-e-g-c-e-g-c-g-m-b-m-b
12 波上の月	g-d-g-d-g-d-g-d-j-d-j-d-g-m-c-d-m-c-d-f-j-d-j-d-g-m-c-d-m-c-d
13 お月見	d-j-g-j-g-b-m-b-m-f
14 ウンテルデンリンデ	j-k-j-k-j-k-j-k-a-b-a-b-a-b-a-b-j-d-j-d-j-d-j-d-j-g-j-g-j-e-j-e-j-i-j-i-j
15 巴里人の生活	l-f-g-f-g-f-g-f-g-f-e-i-g-l-i-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-e-i-g-e-i-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-i
16 空行雁	g-d-g-d-c-g-c-g-c-g-e-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-d-f-d-f-d-f-d
17 蝶のゆくへ	g-m-g-m-g-m-g-m-f-m-d-f-m-d-f-g-f-g-f-e-f-c-f-g-f-g-f-g-f-g-f-g-f-e-d-f-c-d-g-f-c-g-f-c-g-m



写真1 「胡蝶」

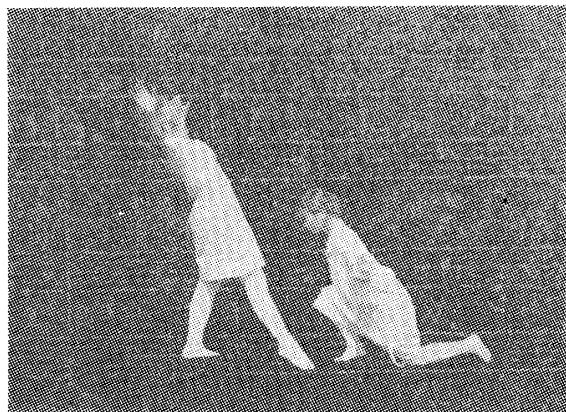


写真2 「二羽の蝶」



写真3 「遊びませう」



写真4 「遊びませう」



写真5 「 Morgenrot 」



写真6 「 フレンチマーチ 」

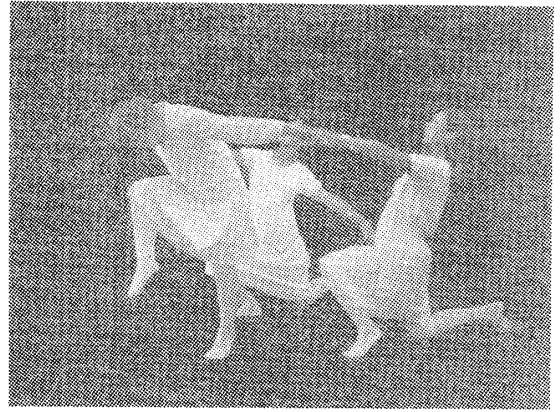


写真7 「 蝶の戯れ 」



写真8 「 蝶の戯れ 」



写真9 「 ダンスオブピース 」



写真10 「 波上の月 」

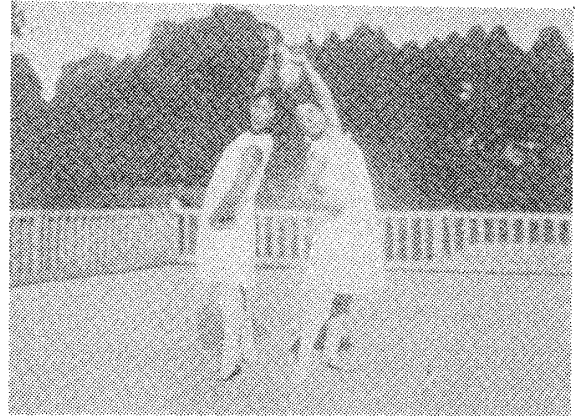


写真11 「 お月見 」

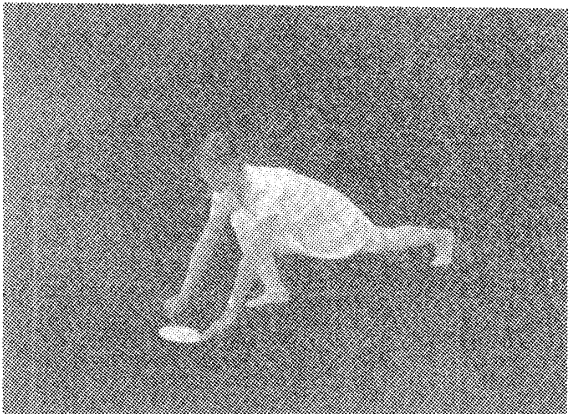


写真12 「 蝶のゆくへ 」



写真13 「 蝶のゆくへ 」

表 4

No.	作品名	教授上の注意(抜粋)
5	フレンチマーチ	(1の運動)踏み換え歩は十分に踵を挙げ足尖にて行ひます (2の運動)「一・二」の足を振る際は足首の力を抜く事に注意いたします (3の運動)「一」の時は全身に力を入れて十分に伸し「三・四」の時は全身の力を抜く事に注意いたします (4の運動)體の前屈, 體の後屈はなるべく柔らかくして大きく動かせるやう行ひます (5の運動)出来るだけ静に行ひます (6の運動)前半は出来るだけ強く後半は力を抜きます (7の運動)(1)「十三・十六」身体の上部より徐々に力を抜きて終りに足に及ぶのです
6	蝶の戯れ	此のダンスは蝶が集まっては離れ, 離れては集まる気持ちを表し, 円線上を終始相手に注意してもつれもつれて行進するのであります
7	私たち	一、此の運動は互に終始相手に留意して相手を気持ちよく踊らせる事に努力してほしいのです。 二、三の運動の両手連手ランニングステップ回転の際は内生の軸も外生も十分に連手を伸して互角の力を出して引張り白線の方を利用して気持ちよく廻らせてほしいのです
12	波上の月	一、運動場の都合により四列縦隊にても差しつかへありません 二、臂・體の動きを大きくして静かに行なわしむるのがよいのです
15	巴里人の生活	運動会の教材として右手に花束を持たしむるのも賑やかになってよいと思ひます但し其の場合はなるべく臂の動きを静にする方がよいと思ひます
17	蝶のゆくへ	一、此のダンスに使用する団扇はなるべく柄が長くて紙面の小なる小供用の団扇を使用すること 二、団扇は、親指、人差指、中高指の三指にて軽く持ちあとの二指を軽くつけて指、手首等に力を入れぬやう注意すること 三、始終団扇の面の向きに注意すること 四、序曲列の編成を變へる時は動作をなるべく早くし団扇をヒラヒラ動かせぬやうに注意すること 五、運動をゆるやかに且つ大きくすることに注意すること

結果及び考察

1. 作品の形態的特性について (表2参照)

各作品が実際に踊られる時の隊形および形式(1人で, 2人組で, 3人組で)そして基本になる拍子を合わせて作品の形態とし, 考察をすすめた。

まず17作品中2作品(巴里人の生活, 蝶のゆくへ)が3拍子, 4作品(胡蝶, 二羽の蝶, モルゲンロート, フレンチマーチ)が2拍子, その他の11作品が4拍子である。圧倒的に4拍子2拍子系のものが多いことがわかる。このことは後述する基本運動との関係からも予測されることであるが, 対象が児童生徒であることや運動会用の作品も多いことなどを考え合わせると拍の取りやすい2拍子4拍子系のものが主体になるのも当然のことと言えよう。

次に作品が踊られる隊形についてみてみると, 多いのが体操隊形で胡蝶はじめ7作品が終始体操隊形で踊られている。前後左右を両手間隔に取った方形をいう。また円形を取るのが「遊びませう」はじめ6作品でそれらは一重円(3作品), 二重円(3作品)に分けられる。更に, 円形を保ちながら2人組になることを必ず指定しており, 一重円の場合は相手を決めるために前もって1, 2の番号を付け2人組の用意をさせている。二重円の場合は円の内と外とで組ませている。そのほか, 二列縦隊(波上の月), 三列縦隊(蝶の戯れ)が1作品ずつあるがいずれも2人組, 3人組を前提に隊形が考えられている。少し複雑なものが「二月の蝶」と「蝶のゆくへ」である。「二羽の蝶」の場合は本文中には「二列より成る二個又は三個の正面柱をつくり各柱の間隔を6歩とする¹⁾」とあるがこれは, 4人組または3人組が正面に面する6人組で各グループの間を6歩程あけるといふ隊形であることが推察される。そして前後で2人組に

なっている動きが同時に組み込まれている。「蝶のゆくへ」の場合は、「正面三人列の並列二個より成る正面六人制、前より一二の番号を附す²⁾」とあり、横3人組を2組、計6名が並列になるという隊形で、後に2組が対称的な動きをするのに都合よく考えられていることがわかった。以上のように当時の作品はある決められた隊形のもとに動きが展開していることがわかる。それも円形か方形のいずれかである。(4人～6人のグループも隊形変化しないため、方形と考えて差しつかえないものとする。)そして作品を通して終始同じ隊形が貫かれ隊形変化はみられない。また一応正面は設定されているものの広い間隔で行われていることや円形の特徴などを考え合わせると、これらの作品はグラウンド、もしくは体育館で行われる事を前提に創られており、多方面から見られるように構成されていることがわかる。更に大変特徴的なことは、17作品中10作品は2人組、または3人組の踊りとして構成されていることである。2人でまたは3人で1つのポーズを創ったり、別々の動きを同時に行ったり、2人または3人の息を合わせた動きが目立っている。本文中でも、相手を思いやる動き方に留意させており、エイ自身もこのことを重視している姿勢がうかがわれる。また、どの作品も冒頭からきちんと隊形が指定されていることから、かなり全体の形を意識した作品創りを当時のエイはしていたのではないかと推察される。

2. 基本運動の特性 (表2, 3参照)

表2より、歩(ウォーキング)20.2%、各種ステップ(ツーステップ、バランスステップ、スキッピングステップ、ガロップ、ワルツステップ)19.6%、と両方で全体の約40%を占めているが、2拍子、4拍子の作品が多いことや、当時(一時期)行進遊戯と呼ばれていたことなどから考えると、これらの運動がベースになって動きが構成されているのは当然のことと思われる。ここで一番特徴的なことは次に多い振動運動14.8%と跳躍11.8%である。両者もかなりの割合を占めている。本来振動運動は、3拍子系の中でゆったりと揺れるまたは振る運動であるが、ここでは2拍子、4拍子の中で多く使用されている。この場合の振動運動は、アクセントのある、軽快な2拍子系の振動運動であったことが想像される。次の跳躍も軽く跳びはねる場合が多く、中で一番多いのが下跳躍でこれは「上から下に跳び降りる歩法なり³⁾」と解説されている。つまり跳び上がる時よりも降りる事を意識した跳躍で軽く跳び込むように行い、必ず次に何かのステップにつながっており、多くはバランスステップへと移行している。次に多いのはスコットランド跳躍でこれは「最終歩の後に同足にて上跳躍をなす交換歩なり⁴⁾」とかかれており空中で足を交代する跳躍で一連の動きの終末に用いられていることが多い運動である。ここまでの運動が全体の過半数66.4%を占めている。続いてポーズ8.1%、走(ランニング)6.8%、重心移動6.4%、解緊運動2.9%、倒2.8%、蛇動2.2%、弾性1.7%、緊張1.2%、手拍子1.1%、バランス0.4%という順になっている。これらのことから考えられることは、2拍子または4拍子系の歩及び各種ステップを基盤に軽快な振動運動と跳躍とで殆んどが構成されており、ところどころポーズが組み込まれることによって動きのリズムに変化を与えているということがわかる。更に、個々の作品の中に使用されている基本運動の流れをみると(表3参照)、大変興味深いことがみられる。どの作品も必ず2種、または3種の基本運動が組になって、くり返し使用されているのがわかる。作品によってその組み方が異なっており、

その組み方で作品の傾向がうかがい知れる。例えば、「胡蝶」の場合、前半はi(倒)とf(跳)が3回くり返され、後半はb(解緊)とi(倒)が4回くり返されている。これが顕著なものは「私たち」と「友千鳥」で、前者はd(歩)とe(走)のくり返し、後者はd(歩)とc(重心移動)のくり返しのみで作品が構成されている。以下表3で明らかなように、基本運動の使用頻度の多い歩(ウォーキング)と各種ステップ、又は振動移動との組み合わせによるくり返しが多くみられる。このことは前述した、軽快な作品が多いことの裏づけともなり得ることと考えられる。また表3から作品ごとに大まかな運動の傾向がみられる。「胡蝶」は跳躍と解緊と倒が中心に構成されている。「二羽の蝶」は跳躍と歩が中心である。「遊びませう」はポーズ、手拍子、倒、「モルゲンロート」はかなり多くの運動が使用されているがやはり歩と跳が目立っている。「フレンチマーチ」は振動運動が多く、その他蛇動、緊張解緊、弾性がみられる。「蝶の戯れ」では歩が目立つ。その他ポーズもみられる。「私たち」歩、走のみ。「喜び」振動と歩中心のもの。「友千鳥」歩と重心移動のみ。「親鳥子鳥」歩が過半数を占めている。「ダンスオブピース」ステップ中心のもの。「波上の月」歩中心のもの。「お月見」振動、解緊、ステップがみられる。「ウンテルデンリンデ」振動運動中心のもの。「巴里人の生活」跳躍とステップが中心となっている。「空行雁」ステップ中心のもの。「蝶のゆくへ」跳躍とステップ中心のもの。以上のように1作品中に多くの種類の運動はみられず、主たる3~5種類の運動が目立ち、それらを規則的にくり返すことによって、全体を構成していることがわかる。

3. ポーズにみる表現の特性について

解説文にはポーズという言葉はみられず、それに当たるものは、動きの説明の後にそのまま休止とあり、次に呼間数が指定されている。ポーズは他の運動と異なり、静止することによって、見る側にその運動やイメージを印象づけるという特性を持ち、流れる動き、変化する動きの中において大変存在感のあるものと言えよう。従ってそのポーズに作品の雰囲気やイメージが象徴されている場合が多く、今回作品の表現上の特性を見るに当たってピックアップしてみた。(写真参照) 以下の10作品にポーズが見られた。「胡蝶」「二羽の蝶」「遊びませう」「モルゲンロート」「フレンチマーチ」「蝶の戯れ」「ダンスオブピース」「波上の月」「お月見」「蝶のゆくへ」これらのうち「遊びませう」と「蝶のゆくへ」については非常に具体的な例を挙げてポーズの説明をしている。「遊びませう」については、「右手より毬をつく形をなし、七にて毬をポンと高く打ち上げて両手共に左斜後に振り右斜上の毬を見上げて、八、休止⁵⁾」と解説されており、同じく「両手を前者の腰部近くに開き鬼取遊びの鬼の形をなす⁶⁾」と書かれている。「蝶のゆくへ」についても「蝶をおさへる表情⁷⁾」とあり、また「蝶の逃げ去りし右斜上を見る⁸⁾」と説明されている。以上のものについては実際の動きも模倣的であり、自らその雰囲気やイメージを感じ取ることができる。しかしその他の作品については、その動きの説明はあるものの、どういう場面であるのか、どんな気持のポーズであるのか、などの解説は一切なされていない。ただし作品のタイトルからの関連より、その場面や状況が想像できるものもある。例えば「二羽の蝶」の場合は、題名をそのまま象徴的に表わしているものであろうと思われる。また、「蝶の戯れ」については、三羽の蝶が乱れとんでいる状態を表現した

のであろうと思われるが、これらはあくまでも筆者の想像の範囲を越えるものではない。その他6作品については、どういう表現意図をもつポーズであるのかこれまでのところ不明である。ポーズを集中的にみることによって表現の特性を探ろうとしたが、(一部のもの以外は)抽象的なものが多く、解説文での手がかりもなく、特性を見るまでには至らなかった。

4. 教授上の注意点にみる指導上の特性について

作品によっては解説文の最後に教授上の注意として特別に留意点を指摘しているものがある。これは、その作品を理解する上での重要な手がかりでもあるが、エイの指導上の注視点でもありと考え、取り出してみた(表4参照)。対象になったのは6作品である。内容的に一番目立つのは、運動に対する補足説明である。難解な動きの要領の説明、運動の大きさ、強弱などについて説明している。次に作品を応用またはアレンジする際の注意点を指摘している。多くは運動会用に应用する場合、手具を持たせる場合などの説明がなされている。そのほか、手具の持ち方、扱い方にもふれている。ここで注目すべきことは、「私たち」の作品で指摘していることから、「一、此の運動は互に終始相手に留意して相手を気持ちよく踊らせる事に努力してほしいのです⁹⁾」とあるように、パートナーに対しての心配りをうながし、お互いがそうすることによって気持を通わせ、動きもスムーズに展開するという指導をしている。本来ならば、自分自身がどういう気持ちで、またはイメージで踊るかが先行する場合の方が多いのであるが、この場合は、まず相手を思いやる気持ちのもとに動きが生まれ、スムーズに流れていくという、学校ダンスの分野にあっては大変意義深い指摘であると思われる。教育的配慮の色濃いダンスの指導法ではないかと考える。エイの作品に2人組、3人組が圧倒的に多いのも、このあたりに根拠があるのではないと思われる。エイのダンスに対する指導観とも結びつけて今後追究していきたい点である。また、作品のイメージを明確に示しているのは、「蝶の戯れ」1作品のみで、他は一切、イメージや雰囲気描写の解説は本文中にもみられない。

おわりに

当初より気がかりであった表現上の特性については、手がかりになることばや、写真資料が極端に少なく特性を見るまでには至らなかったが、基本運動の特性については貴重な結果を得ることができた。今回の結果だけで判断するのは難しいが、ダンスを体育的に捉え、ダンス運動にかなりの比重を置いた創作と指導がなされていたのではないと思われる。今後研究をすすめていく上で見続けて行きたいと考える。

注

- 1) 伊澤エイ 「体育ダンス」 目黒書店 昭和6年1月 p.130 1行目
- 2) 同上書 p.60 1行目
- 3) 同上書 p.1 下段4行目
- 4) 同上書 p.1 下段11行目

- 5) 伊澤エイ 「体育ダンス」 目黒書店 昭和6年1月 p.17 8行目
- 6) 同上書 p.18 3行目
- 7) 同上書 p.61 1行目
- 8) 同上書 p.61 3行目
- 9) 同上書 p.21 10行目

参 考 文 献

- 伊澤エイ 「体育ダンス」 昭和6年1月 目黒書店
- 田川典子・高橋繁美 「図説ダンスの基本運動」 昭和58年7月 新思潮社